

(様式 1 - 3)

福島県(浪江町)帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票

令和 4 年 5 月時点

※本様式は 1 - 2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	55	事業名	浪江町飲料水等安全確保支援事業	事業番号	(2) -19-1
交付団体		浪江町	事業実施主体 (直接/間接)	浪江町 (直接)	
総交付対象事業費		(148, 185 (千円) (189, 072 (千円))	全体事業費	(148, 185 (千円) (189, 072 (千円))	
帰還・移住等環境整備に関する目標					
帰還する町民が安心して生活するためには、放射性物質に対して安全・安心して利用できる飲料水及び生活用水の確保が必須である。浪江町では、上水道が整備されているところであるが、一部、井戸水や沢水を利用していた世帯があり、こういった方々が安心して帰還できるよう、井戸を整備することにより飲料水及び生活用水を確保する。					
事業概要					
放射線や放射性物質への不安を払拭し、安心して帰還できる生活環境を整えることを目的として、町内の上水道が供給されていない世帯のうち帰還意向のある世帯に対し、放射線を取り込まない措置として、新規の井戸掘削による安全・安心な飲料水及び生活用水の確保を実施する。					
当面の事業概要					
<平成 28 年度> ・井戸掘削及びポンプ設置工事 4 世帯					
<平成 29 年度> ・井戸掘削及びポンプ設置工事 10 世帯					
<平成 30 年度> ・井戸掘削及びポンプ設置工事 3 世帯					
<令和元年度> ・井戸掘削及びポンプ設置工事 4 世帯 ・井戸掘削 (100m⇒150m)					
<令和 2 年度> ・井戸掘削及びポンプ設置工事 1 世帯					
<令和 3 年度> ・井戸掘削及びポンプ設置工事 2 世帯 (うち帰還困難区域内復興拠点 2 世帯)					
<令和 4 年度> ・井戸掘削及びポンプ設置工事 4 世帯 (うち帰還困難区域内復興拠点 2 世帯)					
地域の帰還・移住等環境整備との関係					
住民の帰還に向けて、放射性物質が飲料水、生活用水に混入する不安払拭のための措置を講じるものである。除染後においても、更なる生活環境の快適性と線量低減効果が同時に期待できるような、きめ細かい生活環境の向上を図ることにより、浪江町の復興・再生に資するものである。					
関連する事業の概要					
個人線量計による外部被ばく線量測定事業、WBC による内部被ばく検査事業などと併せて、放射線や放射性物質に対する帰還住民の不安の解消を図る。					

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	

(様式 1 - 3)

福島県(浪江町)帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票

令和 4 年 5 月時点

※本様式は 1 - 2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	121	事業名	陶芸の杜おおぼり環境整備事業	事業番号	2-19-2
交付団体	浪江町		事業実施主体(直接/間接)	浪江町(直接)	
総交付対象事業費	22,966(千円)		全体事業費	22,966(千円)	
帰還・移住等環境整備に関する目標					
<p>施設は令和 5 年の春より避難指示解除、利用開始を目指しているが、長期間帰還困難区域内であったため、帰還予定の窯元や地域住民より当該施設内の放射線量について不安を感じる発言を多数いただいている。環境省の除染作業により施設敷地内の線量は一定程度減少しているものの、線量低減をアナウンスしてもイメージは覆っていない現状がある。</p> <p>大堀地区の窯元を含む地域住民の集会所・コミュニティ施設である当該施設内敷地をアスファルト舗装整備し、地表からの放射線を遮蔽することにより線量を低減することで、地域住民が安心して利用できる環境を整備し、住民同士のコミュニティの維持・強化を図ることにより、帰還に向けた加速化の促進、帰還意欲の向上を図る</p>					
事業概要					
陶芸の杜おおぼり敷地内のアスファルト舗装 敷地内の放射線量の低減化を目的として、アスファルト舗装工事を実施することにより生活環境の向上を行う。					
浪江町復興計画(第三次)における位置づけ 第三編 基本計画 第三章 帰還困難区域の再生と住みよい環境づくり 施策 1 帰還困難区域の再生 (1) 帰還困難区域の再生					
当面の事業概要					
<令和 4 年度> 陶芸の杜おおぼり敷地内のアスファルト舗装工事					
地域の帰還・移住等環境整備との関係					
当施設及び近隣の大堀相馬焼の窯元敷地は特定復興再生拠点となっており、令和 5 年の春からの避難指示の解除を目指している。本事業により住民の放射線に対する不安を低減し、生活環境の向上対策を講ずることは住民の帰還・移住を促進するものである。					
関連する事業の概要					

※効果促進事業等である場合には以下の欄に記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	

(様式 1 - 3)

福島県(浪江町)帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票

令和 4 年 5 月時点

※本様式は 1 - 2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	82	事業名	浪江町水道施設整備事業	事業番号	2-20-4
交付団体		浪江町	事業実施主体 (直接/間接)	浪江町 (直接)	
総交付対象事業費		(1, 486, 659 (千円)) 1, 500, 805 (千円)	全体事業費	(1, 486, 659 (千円)) 1, 500, 805 (千円)	
帰還・移住等環境整備に関する目標					
<p>・就労の場を確保し住民の帰還を促進するために、棚塩産業団地及び南産業団地、北産業団地を整備する。</p> <p>現状の管網での最大供給可能量は、3,700m³/日である。棚塩産業団地 (4,000m³) 及び南産業団地 (1,840m³/日)、北産業団地 (329m³/日) には、小野田取水場の系統から配水しており、既存取水能力及び配水管の口径では不圧及び供給不足となる。このため、上記産業団地整備に伴い、需要量の精査及び配水計画を再構築した上で必要な配水管整備を実施し、浪江町内での生活と企業活動に必要な生活用水、工業用水等の確保により、町民帰還の促進と、雇用創出を図る。</p> <p>・井戸により生活をしていた方が、東日本大震災及び原子力発電所事故による影響で井戸水が枯れた等により、同じ場所での生活再建が困難な状況にある。このため、帰還促進し町民が、浪江町で生活再建ができるよう、未給水地域での飲料水の確保の支援を行う。</p> <p>・生涯学習に取り組める環境を整備し、帰還を促進するために必要な飲料水確保を行う。</p>					
事業概要					
<p>・棚塩産業団地及び北・南産業団地等への用水を確保するため</p> <p>・配水管の設計及び配水管布設工事 (L=800m) を行う。また、来年度以降に布設する配水管路については、市街地領域になるため、他の埋設管路、道路幅員、JR及び国道横断などの条件により制約されるため、事前の調査による路線決定をするための基本設計を行う。</p> <p>・帰還住民の水源確保に伴う配水管工事 (L=100m) を行う。</p> <p>・小野田取水井戸の設計及び増ボーリング工事を行う。</p> <p>・小野田取水場敷地造成及び建築工事を行う。</p> <p>・高区配水場の設計を行う。</p> <p>・帰還住民の水源確保に伴う配水管工事を行う。</p> <p>・生活環境整備として配水管路整備を行う。</p>					
当面の事業概要					
<p><平成 30 年度></p> <ul style="list-style-type: none">・調査及び比較検討、計画作成 <p><平成 31 年度></p> <ul style="list-style-type: none">・産業団地計画に伴う配水管布設工事 (小野田系統第 1)・産業団地計画に伴う配水管設計業務委託 (苅野系統第 1)・産業団地計画に伴う配水管布設工事 L = 767.9m (苅野系統第 1 : 道路拡幅部)・配水管布設に伴う管網計算等業務委託 <p><令和 2 年度></p> <ul style="list-style-type: none">・産業団地計画に伴う配水管布設工事 L = 1032.1m (苅野系統第 1 : 既存道路部)・産業団地計画に伴う小野田配水管設計及び配水管布設工事 (DB方式) L = 2,010m・産業団地計画に伴う井戸設計に係る需要量調査及び管網計算業務委託・小野田取水場建築設計及び井戸の詳細設計業務委託・産業団地計画に伴う小野田送水管設計及び送水管布設工事 (DB方式) L = 340m <p><令和 3 年度・第 33 回></p> <ul style="list-style-type: none">・産業団地計画に伴う小野田配水管設計及び配水管布設工事 (DB方式) L = 800m・産業団地計画に伴う小野田配水管基本設計・帰還住民に伴う配水管工事 L = 100m					

- ・小野田取水場造成工事
 - ・小野田取水井戸詳細設計業務委託
 - ・高区配水場設計
 - ・帰還住民に伴う配水管工事 L=130m
- <令和4年度>
- ・配水管工事（高瀬地区） L=71m
 - ・帰還住民に伴う配水管工事 L=140m
 - ・帰還住民に伴う配水管工事 L=120m

地域の帰還・移住等環境整備との関係

・これまでの地域経済を支えてきた産業は原子力災害により甚大な被害を受けた。避難した住民の帰町判断の一つである雇用の場の確保は当町の帰還再生のための喫緊の課題である。地域経済の立て直しのために既存産業の再生と併せて新たな産業集積を図り相当数の雇用の場を確保すること、その新たな産業の受け皿となる産業団地整備を行うことで避難住民の帰還と新たな住民の定住促進に繋がり、地域の再生を加速させる。さらに、棚塩産業団地の整備は、これまでにない新たな風を起こすものであり、町民の帰還はもとより、雇用の創出や地域経済の再生など、その後の復興・発展に大きく寄与するものである。

・震災前より町営高瀬野球場では、スポーツ少年団、中学校、高校での部活動及び社会人チーム等による各種野球大会等が年間を通して開催されていた。また、当該施設に隣接している宿泊機能を備えた施設「いこいの村なみえ」は、平成30年度より営業を再開しており、本年度には、近接する丈六公園の整備が完了予定であることから、今後、周辺一帯は町民・研修旅行参加者の交流の場・憩いの場として更なる利用増加が見込まれている。

また、今現在も、町代表チームとしての活動のほか、避難先等において、独自に活動を続けている団体が存続しており、盛んに交流を図っている状況もあることから、それぞれの避難先から大会等を通じ交流することで、避難住民の帰還、更には新たな住民の定住促進にも繋がり、地域の再生を加速させるものである。

(利用見込人数 約1,500人/年間)

関連する事業の概要

生活環境整備事業

令和3年度 町営高瀬野球場の復旧にあたり、被害状況の調査を行い、その調査結果を受け、実施設計を行う。

令和4年度 町営高瀬野球場復旧工事

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	

(様式 1 - 3)

福島県(浪江町)帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票

令和 4 年 5 月時点

※本様式は 1 - 2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	111	事業名	浪江町埋蔵文化財等収蔵施設整備事業	事業番号	◆(1)-17-1-1
交付団体	浪江町		事業実施主体(直接/間接)	浪江町(直接)	
総交付対象事業費	7,348(千円) 208,661(千円)		全体事業費	7,348(千円) 208,661(千円)	
帰還・移住等環境整備に関する目標					
<p>一部地域の避難指示が解除された浪江町内において、雇用の創出や住環境の整備等の各種開発事業を進めるにあたり、埋蔵文化財包蔵地(以下「遺跡」とする。)の有無や、範囲・内容(年代や性格)等を明らかにするため、分布調査及び試掘確認調査を実施し、開発と埋蔵文化財の保護の両立を図る。</p> <p>開発事業との調整を図ったうえで、埋蔵文化財への影響が避けられない場合は、発掘調査による記録保存を実施する。さらに、発掘調査の記録や資料等の保存整理を行う。</p>					
事業概要					
<p>町内の帰還促進に向けた環境整備(開発)を行うにあたり、開発予定地内における遺跡の有無や、範囲・内容等を事業開始前の計画段階から把握し、開発と埋蔵文化財の保護の両立を図る。</p> <p>その際に発掘された埋蔵文化財や調査報告書、資料等の保存整理をするため、収蔵施設の整備を行う。</p>					
当面の事業概要					
<p><令和3年度></p> <p>収蔵施設整備 設計業務委託</p> <p><令和4年度></p> <p>収蔵施設整備 建築工事</p> <p>収蔵施設整備 建築工事施工監理業務委託</p>					
地域の帰還・移住等環境整備との関係					
<p>町内で進められている各種帰還・移住等環境の整備事業においては、事前に遺跡の試掘確認調査を実施することで、開発事業の計画段階からの円滑な調整が図られる。開発による影響が避けられない場合において、速やかに発掘調査による記録保存を図ることで住民の帰還に向けた各種整備事業の円滑な実施につながるため。</p>					
関連する事業の概要					
<ul style="list-style-type: none">・一団地の復興再生拠点市街地形成施設事業(浪江駅周辺地区)浪江駅周辺において、核となるエリア(先導整備エリア)での具体的な基盤整備等の基本設計及び都市計画決定、事業認可の手続き等を行い、浪江町中心市街地の一日も早い復興と、にぎわいのある環境の再生を目指すものである。・復興まちづくり地区公共施設整備事業(幾世橋地区)町村単位であった小中学校に代わる地域の公共施設として、また災害時における避難施設として地区ごとに復興まちづくり地区公共施設を整備し、安心して豊かな生活が営める環境を創出し、地域の活性化を図る。・畜産施設造成事業町の農業復興拠点として大規模畜産施設を整備することにより耕畜連携を図り、営農再開、町民の帰還を促進する。					

関連する基幹事業	
事業番号	(1)-17-1
事業名	浪江町埋蔵文化財発掘調査事業
交付団体	浪江町

基幹事業との関連性

この収蔵施設を建設することにより、町復興事業計画地より発掘された文化財等資料を効率良く、確実に保存整理を行うことが出来る。

(様式 1-3)

福島県（浪江町）帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票

令和 4 年 5 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	120	事業名	多様な農業の移住潜在層支援事業	事業番号	7-49-10
交付団体	浪江町		事業実施主体（直接/間接）	浪江町（直接）	
総交付対象事業費	2,578（千円）		全体事業費	2,578（千円）	
帰還・移住等環境整備に関する目標					
<p>当町は、6 年間の全町避難を経て、平成 29 年 3 月 31 日に一部地域の避難指示が解除された。役場機能を本庁舎に戻し、本格的な復旧・復興事業を進めてきたところ、令和 4 年 2 月末時点の町内居住人口は 1,827 人となっている。町内居住人口は着実に増えてはいるものの、震災前の約 21,000 人に比べ 1 割に満たない状況である。震災前の賑わいを取り戻し、次世代にまちを残し、伝えていくためには人口の増加が必要であり、避難町民の帰還促進のみならず、新たな流入人口を増やし、移住・定住を促進する必要があると考え、令和 7 年度までに復興や地域課題の課題に対する意欲の高い就農を希望する移住潜在層の獲得目標人数を 30 人以上としている。</p> <p>なお、第三次浪江町農業再生プログラム（令和 3 年 3 月に策定）において、令和 7 年までの農業の担い手として、新規就農者 25 人以上、農業関連法人の雇用者数 25 人以上とする目標を掲げている。</p>					
事業概要					
<p>【事業概要】</p> <p>多様性のある農業者の育成や新しい働き方を提供する場所づくり等により農業分野の実践型教育の拠点、特徴のある農業者の定着を図るため、「アグリイノベーション大学校連携プログラム開発」事業を実施し、移住・定住を促進する。</p> <p>【事業内容】</p> <p>■アグリイノベーション大学校連携プログラム開発</p> <p>浪江町におけるリアルケーススタディプログラム（実践型のケーススタディを開催）</p> <p>（例）エゴマプロジェクト、SDGs 対応型農業、稲作、トルコギキョウ、他</p> <p>参加者とともに、6 か月程度を使い浪江町へ訪問し調査、実践、計画づくりを行う。</p> <p>【本事業の位置づけ】</p> <p>■浪江町復興計画【第三次】（令和 3 年 3 月策定）</p> <p>第 1 章 夢と希望のある産業と仕事づくり【施策 1 農林水産業の再開】</p> <p>◆目指す姿と取組</p> <p>農産物、水産物、地酒、大堀相馬焼などの既存地場産品の他、新たな特産品として定着してきた花きやエゴマ商品などの安全性や品質の良さを様々な機会を捉え、積極的に情報発信するとともに、町内での農業体験ツアーや道の駅での陶芸体験・酒蔵見学など地場産品に触れる機会を創出することにより、風評被害払拭を図ります。</p> <p>また、地場産品を率先して町内で活用する取組を推進するとともに、大学等関係機関と連携して、特産品の開発支援や農林水産物の六次化支援などを積極的に行います。</p> <p>■第三次浪江町農業再生プログラム（令和 3 年 3 月策定）</p> <p>第 4 章 主要施策【主要施策その 1「担い手の確保・育成体制の整備」】</p> <p>◆目指す姿と取組</p> <p>農地所有者の営農再開が定率で、将来において担い手が不足することが明らかであるなか、もともとの町内農家の営農への誘導、新規就農者の確保、外部法人への誘致に向けた事業を展開してきたが、より効果的な施策を考案し展開していくことが必要であり、農業を通じて移住・定住促進にも取り組みます。</p> <p>■浪江町移住・定住促進中期戦略（2021～2026）</p> <p>主な取組：5. 移住等の促進に資する主な取組</p> <p>町外の農業学校等と連携し、移住促進や多様な担い手、新たな営農に対する移住潜在層モデル創出のためのプログラム開発を実施していく。</p> <p>ターゲット層：3 まちが獲得したい層</p> <p>（ターゲット層 1）復興や地域課題の解決に対する意欲が高い人</p>					

当面の事業概要

【令和4年度】

- ・委託料：2,578千円
- ・目的：県外（関東圏）居住の農業学校を卒業した社会人（農業学校卒の移住潜在層）の方に対し、営農起業後の経営手法も含めた実践型プログラムを提供し、研修終了後に浪江町に定住しながら営農を継続するための知見や経験を獲得してもらい、浪江町への移住・定住者の増大の促進を図る。
- ・テーマ：エゴマプロジェクト、SDGs対応型農業、サーキュレイト農業、稲作、トルコギキョウ他
- ・実施時期：2022年8月～2023年3月
- ・募集：関東圏に居住する社会人向け農業学校の受講生及び関東圏に居住する農業学校を卒業した社会人（最大10名程度を定員とする。）
- ・内容：テーマをグループで設定し、定期的に浪江町を訪問、調査、計画づくりなど実践的なケーススタディを行う。また、経営収支なども明らかにすることで、浪江町における新たな農業のビジネスモデルなども検討する。浪江における農業モデルを教育プログラムとして実践し、調査内容や学びのアウトプットなどの情報は、ケーススタディ（事例）の教材として、浪江町のオリジナルプログラムとし、浪江町での就農、移住を考える上での基礎資料とする。
エゴマプロジェクト、トルコギキョウ、稲作、などから選択しチームのテーマを設定（参加人数によりテーマ数、チーム数は調整）、浪江町に既にある既存事業をケースとして勉強するだけではなく、移住、就農視点で幅広く新たな営農品目やビジネスモデルの検討、地域資源の探索にも取り組む。

■プログラム内容は、下記のとおり予定している

※下記は浪江町で栽培されるエゴマプロジェクトを例に作成

時期（予定）	テーマ	内 容
令和4年8月	浪江町訪問調査	<ul style="list-style-type: none"> ・浪江を知る（浪江町役場からの講義など） ・代表的な農業の見学 ・地域内の様々なステークホルダーの確認
令和4年8月～9月	テーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの検討 ・事前調査／エゴマの生産状況、経営状況 ・営農者へのヒアリング
令和4年9月～10月	現地ワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング、管理作業体験 ・調査、まとめ：市場性、強み弱みマーケット調査、強み弱みの分析、活用可能な地域資源の探索、収支や販売などの検討
令和4年10月～ 令和5年1月	モデル検証、実践	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫作業 ・販売のお手伝い、モデル検証、ワークショップ開催 ・新たな品目、営農モデルの検討
令和5年2月	報告会、プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト受入先に対して発表。収支や、ビジネスモデルの発表など
令和5年3月	ケースのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムのまとめ、ケース教材として作成

【補足：アグリイノベーション大学校について】

アグリイノベーション大学校は、(株)マイファームが運営する社会人向け農業学校であり、関東（千葉、神奈川、埼玉）、関西（大阪、京都）に農場を構え農業技術や農業経営を全般的な学べる場所として運営されている。

これまで姉妹校を含め2,000名の卒業生を輩出し、多種多様な人材が集まる。独立就農や雇用就農、移住も増えている。創設2011年。厚生労働省「教育訓練給付金」指定講座（2017年より）。2018年、には、日本農業技術検定協会より成績優秀団体として表彰を受ける（最優秀賞団体として「アグリイノベーション大学校関東校」、優秀団体として「アグリイ

ノベーション大学校関西校)。同年、農林水産省にて開催された「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」にてアグリノベーション大学校が「有機農業・環境保全型農業部門 生産局長賞」を受賞。

【令和5年度】

・委託料：継続して事業実施

地域の帰還・移住等環境整備との関係

移住者を積極的に受け入れることで居住人口が増加し、賑わいのある安全・安心な町内生活環境の創出につながることで、帰還検討者、新規就農者、営農拡大等を検討している農業者に対しても手厚い支援制度を展開しており、併せて帰還促進効果も期待できる。

関連する事業の概要

■福島県営農再開支援事業【多様な農業の担い手育成支援事業】

- ①多様な担い手育成のニーズ調査事業
- ②視察ツアー／ワークショップ事業
- ③新たな営農モデルの調査／就農拠点づくりに向けた調査（多様性×サステナビリティ）事業

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業

事業番号	
事業名	
交付団体	

基幹事業との関連性

--